

同じ国試の養成演習を担当する者として、授業見学に入らせていただき客観的に参加したことで、改めて気付いたことを以下にまとめることにする。

堀先生の授業の進め方は、次の流れに従っていた。

- ① 問題の選択肢について、正しいものに○がつけられている。
- ② 解説のうち、大切なポイントに線が引いてあるものを提示しながら、線を引いた部分だけを学生に読ませる。大切なポイントは、画面上をマーカーでなぞりながら確認をする。
- ③ 覚えさせるポイントを明確に提示してから、各設題につき時間を区切って暗記させる。
- ④ 全部の選択肢が確認できた段階で、全体の暗記時間を5分間とる。
- ⑤ 3問の問題が終了した段階で、確認テストを行う前に、再復習の時間を再度取る。
- ⑥ 最後に、確認テストを行う。全員が満点を取れていることを確認する。

これらの授業の進め方は、養成演習を担当する者には共通のスキームとしているもので

あるが、今回の総長先生のご指導があったポイントとして、誤っている選択肢のどこが違っているかを確認させたら、実際にテキストに正しく直させるように書き込みをきちんと行うことを繰り返し指摘されていた。

これは、学生（受験生）の立場になってみると、問題を見直す時に、きちんと正しい書き込みがされていると、復習や暗記を行う際に、非常に印象的に頭に残るコツであることを改めて確認させていただいた。

また、授業の最後に行う確認テストでは、「全員が満点を取れるように、各選択肢のポイントを確実に覚えるように」との指示を明確にしながら、学生を暗記に向かわせていたが、これも我々が日頃から行っている大切なポイントであることを再認識させられた。

国家試験の問題を繰り返し解く作業は、ともすると単調な繰り返しとなってしまうがちである。例えば、問題を解いたその時間の最後には全問正解できていることができている、しばらく時間をおくと忘れてしまう内容がでてくる。これを、繰り返し記憶の上書きを行いながら、試験本番にきちんと思い出すことができるように仕上げるためには、受験生としての「試験モード」にいかに向かわせるか、と工夫することが必要となるだろう。

よく、総長先生は「資格の取得により、自分が希望する就職先に繋げることができること」、「仕事をする上で、資格を持っている者には資格手当がつくこと」、「特に医療系では資格がなければ就職が取り消されることもあること」をおっしゃられているが、タイミングを計りながら、学生を一刻も早く「試験モード」に切り替えるには、まさにこれらは的確な言葉掛けであると改めて考えさせられた。